

## 十 勝 岳

### ○ 火山活動評価：やや活発な状況

62-2 火口では 2006 年 1 月以降、噴煙活動及び火口温度に低下傾向がみられているものの、熱活動は依然としてやや活発な状況で経過しました。2 月 3 日に振幅のやや大きな火山性微動が観測されたほか、2 月 14 日にも振幅の小さな火山性微動が観測されました。

#### 平成 18 年の主な火山活動と火山情報の発表状況

日付	火山活動	火山情報発表状況
2 月 3 日	振幅のやや大きな火山性微動発生（継続時間約 1 分）	発表なし
2 月 14 日	振幅の小さな火山性微動発生（継続時間約 30 秒）	

### ○ 概況

#### ・ 噴煙活動（図 1）

62-2 火口の噴煙高度はおおむね 100～200m で経過しました。噴煙活動は 2006 年 1 月以降低下傾向が見られますが、やや活発な状態が続いています。

#### ・ 火口や噴気の状況（図 2～3）

6 月 25～28 日および 9 月 6～9 日に調査観測を実施しました。62-2 火口では、一部活動が衰退した噴気孔が確認され、火口温度は低下傾向がみられるものの、依然高温の状態が続いていました。その他の火口の状況にも大きな変化はありませんでした。

#### ・ 地震活動（図 1、図 4、表 1）

火山性地震は、1 日あたり 0～8 回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。

2 月 3 日に、62-2 火口周辺が発生源と推定される振幅のやや大きな火山性微動が観測されたほか、2 月 14 日にも振幅の小さな火山性微動が観測されました。空振計には火口からの噴出を示すような振動は観測されず、また火山性微動の発生前後で火山性地震の増加はみられませんでした。

#### ・ 地殻変動（図 5～8）

GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

GPS 繰り返し観測では 62-2 火口付近で観測誤差を上回る有意な変動は観測されませんでした。

---

※資料は気象庁のほか、北海道、北海道立地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

資料中の地図については、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製していません（承認番号 平 17 総復、第 650 号）。

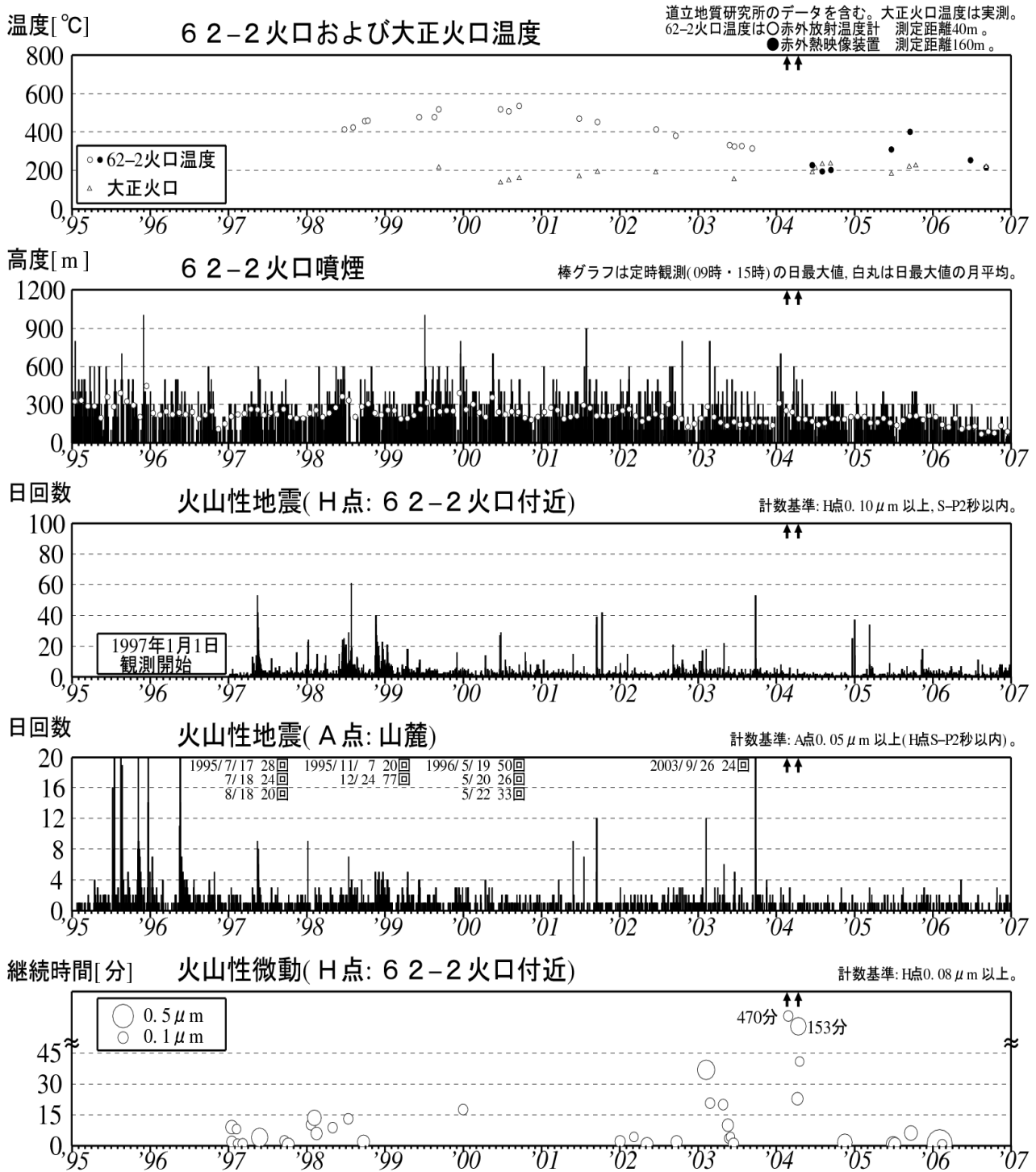


図1※ 十勝岳 近年の火山活動経過図（1995年1月～2006年12月） ↑印はごく小規模な噴火  
 ・62-2火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いていますが、2006年1月以降低下傾向が見られます。地震活動は1999年後半から比較的静穏に経過しています。  
 ・火山性微動は2006年2月15日以降発生していません。

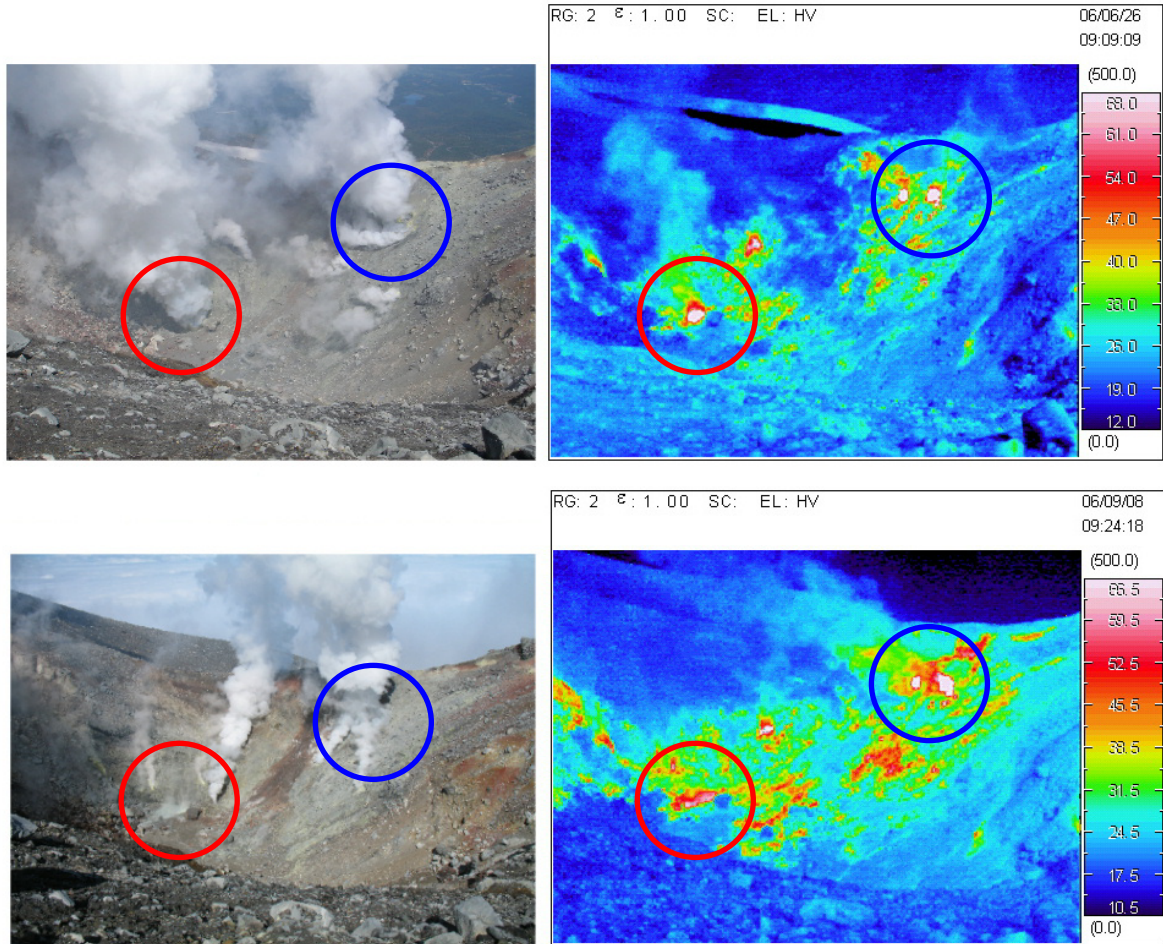


図2 十勝岳 赤外熱映像装置\*による62-2火口の表面温度分布

○：西側火口底の噴気孔    ○：北側内壁の噴気孔

（上：2006年6月26日 下：2006年9月8日 いずれも62-2火口南東側火口縁より撮影）

- ・ 9月の観測で、これまで認められていた西側火口底の活発な噴気は衰退し、噴気孔の周りは湯溜まりの状態になっているのが確認されました。
- ・ 北側内壁の噴気孔の状況に変化はなく、噴気が勢いよく噴出していました。火口縁では強い二酸化硫黄（SO<sub>2</sub>）臭が認められました。
- ・ 赤外熱映像装置により測定した62-2火口の温度は6月約250℃、9月約220℃と低下傾向がみられますが引き続き高温の状態が続いていました。

\* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

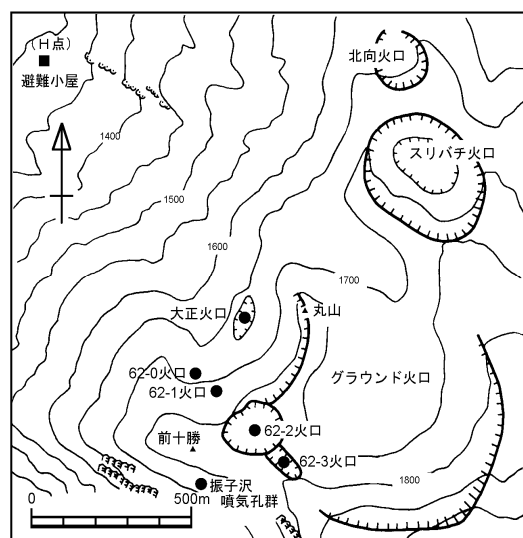


図3 十勝岳 火口周辺図

表 1 十勝岳 地震・微動の月回数（H点：山頂付近〔図 4 TOKH〕 A点：山麓点〔図 4 TOKA〕）

2006 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
H点地震回数	32	44	48	37	32	16	25	22	19	32	83	76
A点地震回数	6	8	10	4	12	3	6	2	2	4	6	8
H点微動回数	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

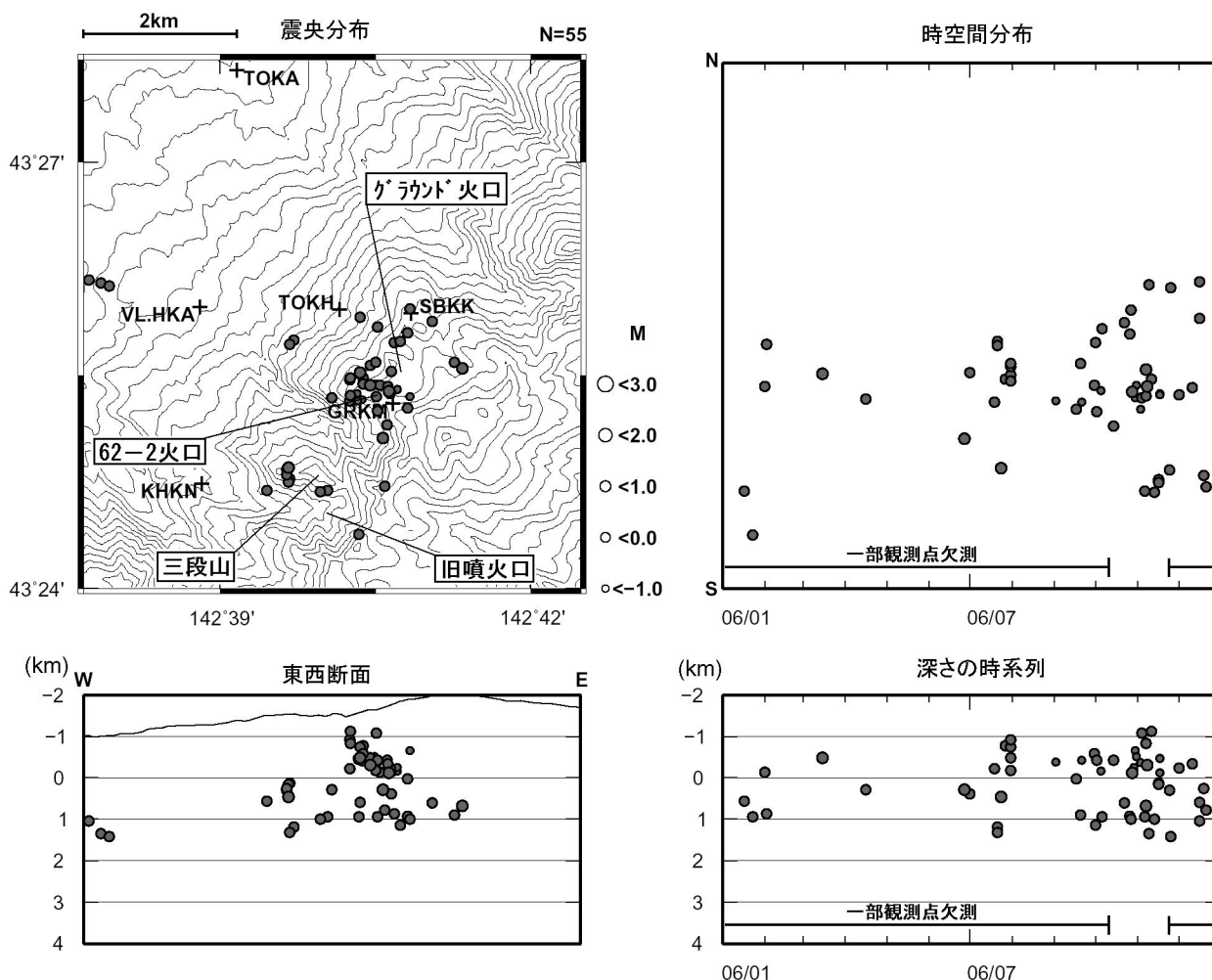


図 4※ 十勝岳の震源分布図（2006 年 1 月～2006 年 12 月、+は地震観測点）  
 2005 年 12 月 19 日～2006 年 10 月 4 日までの間及び 2006 年 11 月 22 日以降、一部観測点欠測のため震源決定能力が低下しています。

- ・震源はグラウンド火口周辺の浅い所（山頂から深さ 1～3km 付近）に集中しているほか、三段山～旧噴火口周辺の浅い所にも分布しています。

震源分布図の説明

- ・東西断面：震央分布で表示された範囲を東西面に投影して、地震の垂直分布を示した図です。
- ・時空間分布：震央分布で表示された範囲を時間経過とともに南北面に投影することで、震央の位置がどのように推移しているかを示した図です。
- ・深さの時系列：時間経過とともに震源の深さがどのように推移しているかを示した図です。

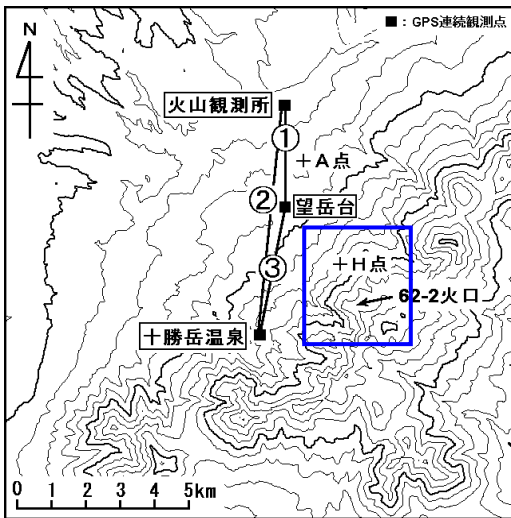


図 5 十勝岳 GPS 連続観測点配置図

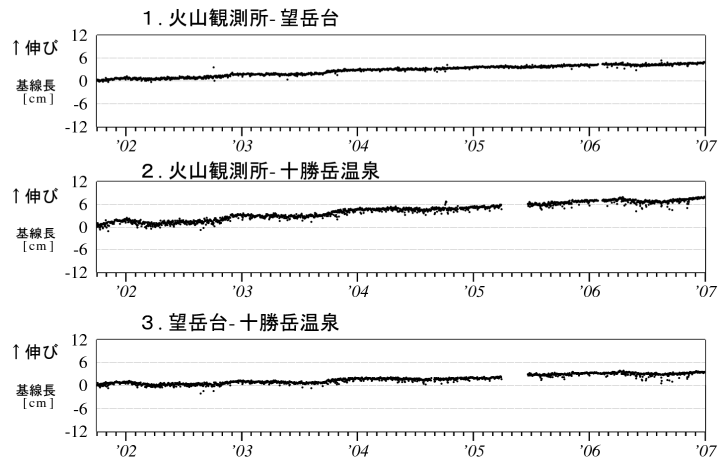


図 6 十勝岳 GPS 連続観測による基線長変化  
(2001 年 10 月～2006 年 12 月)  
グラフの空白部分は欠測

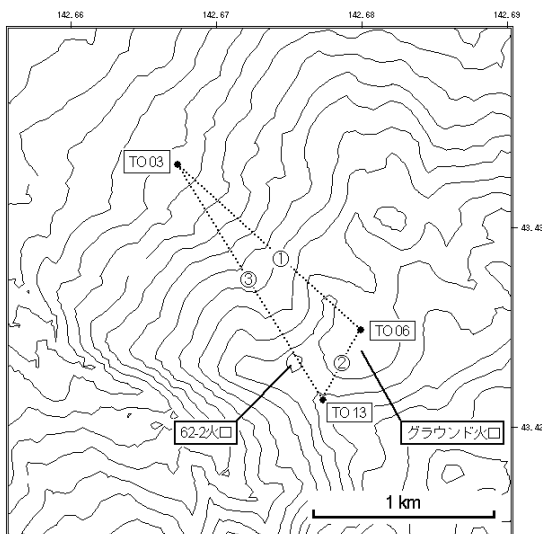


図 7 十勝岳 GPS 繰り返し観測点配置図

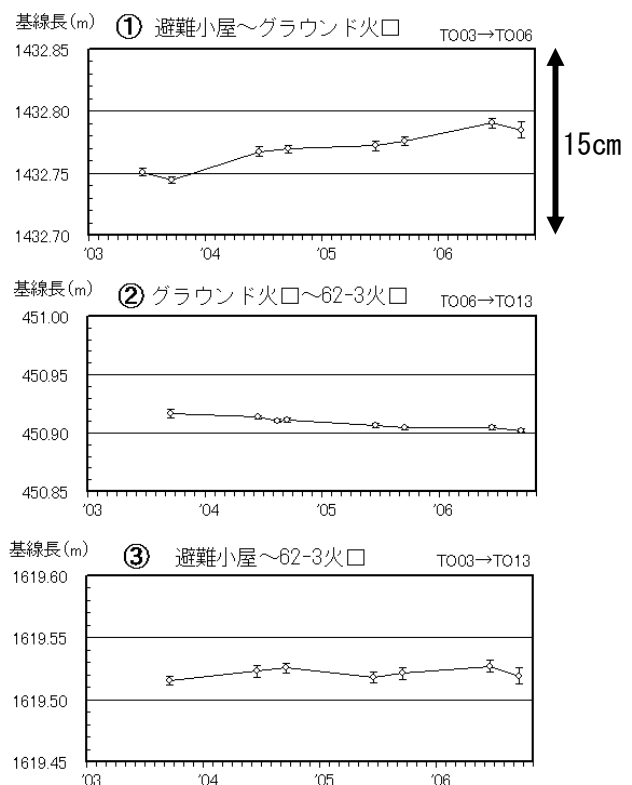


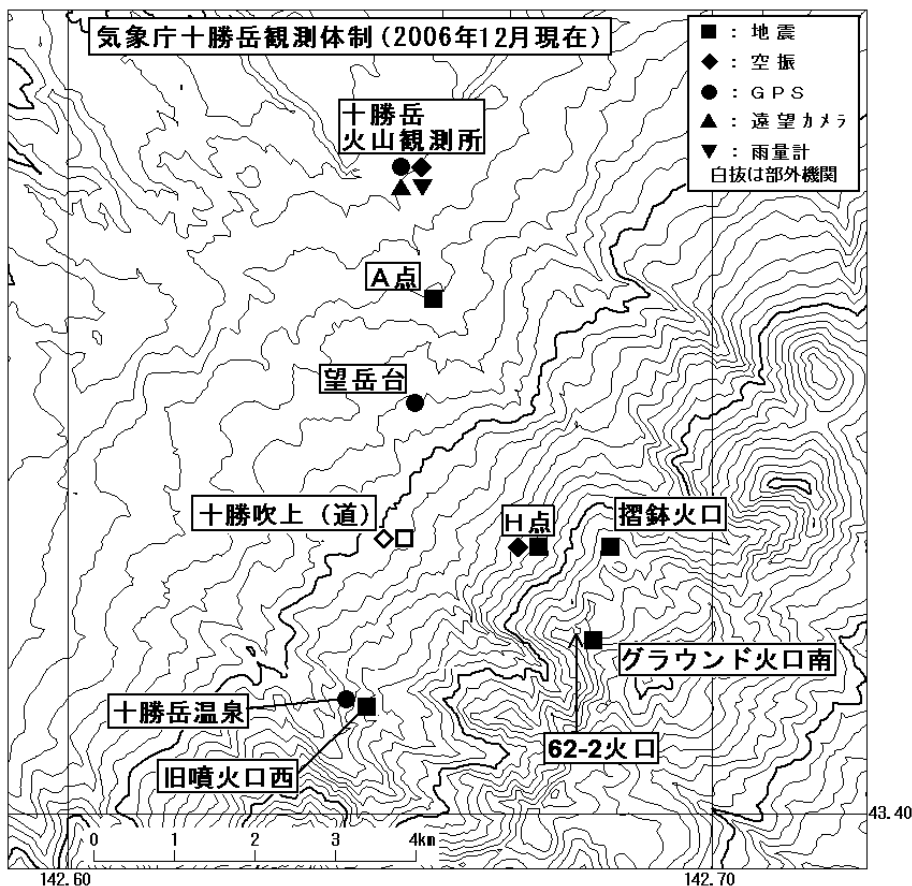
図 8 十勝岳 GPS 繰り返し観測による基線長変化  
(2003 年 9 月～2006 年 9 月)

図 6 の 1～3 は、図 5 の GPS 基線①～③に対応しています。

図 8 の①～③は、図 7 の GPS 基線①～③に対応しています。

- ・ GPS 連続観測では火山活動によると考えられる地殻変動は観測されませんでした。
- ・ GPS 繰り返し観測では、62-2 火口付近で観測誤差を上回る有意な変動は観測されていません。

観測点情報



観測点一覧表 十勝岳 (位置は世界測地系)

記号	観測機器	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始年月
			緯度(度分)	経度(度分)	標高(m)		
■	地震計	A点	43 27.7	142 39.2	763	0	1964年4月
		H点	43 26.0	142 40.2	1355	-2	1997年1月
		摺鉢火口	43 25.9	142 40.8	1685	0	2003年7月
		グラウンド火口南	43 25.3	142 40.7	1802	0	2003年7月
		旧噴火口西	43 24.7	142 38.8	1285	0	2003年7月
		十勝吹上(道)	43 26.0	142 38.8	1044	-1	2004年7月
◆	空振計	火山観測所	43 28.5	142 39.0	651	4	1989年10月
		H点	43 26.0	142 40.2	1355	4	1997年9月
		十勝吹上(道)	43 26.0	142 38.8	1044	4	2004年7月
▲	遠望カメラ	火山観測所	43 28.5	142 39.0	651	4	1989年10月
●	GPS	火山観測所	43 28.5	142 39.0	651	8	2001年9月
		望岳台	43 26.9	142 39.0	924	4	2001年9月
		十勝岳温泉	43 24.9	142 38.6	1369	4	2001年9月